

特集

母校新校舎竣工!!



第 44 号

発行所

〒157-0066

東京都世田谷区成城1-13-1

武蔵工業大学付属中・高等学校内

電話 03-3416-4161

発行責任者 阿部俊夫

編集責任者 清水茂

中学・高等学校一貫教育を、さらに充実した施設で

母校は、中学から高等学校への6ヶ年一貫教育体制を充実させた進学校として、を旗印として、過去、昭和39年3月1日尾山台(武蔵工業大学敷地内)から移転しました。以来、永い間親しまれてきました。が、老朽化が目立ってきた中学校・高等学校現校舎を全て解体し、同敷地内校庭に全く新しい最先端施設を誇る校舎を建設するべく昨年より工事を行なってきた。

ました。今夏ようやくその全貌が私たちの前に現れました。2学期が始まる先月9月よりこの最新の先端施設を備えた教室や、実験室、多目的ホールでの授業が開始されたのです。たとえば、施設として115席の威容を誇る講演会・上映会が可能なシアター。さらに拡充された理科実験室・文化教室・特別教室・カウンセリングルーム等々である。特に理科実験室はわが母校の最大の特徴である。知識重視より体験重視の教育観点から教職員同士の忌憚のない要望やアイデアを率直に計画に折り込み反映させてきたことで相応な評判を得ること間違いのないのではないのでしょうか。新JIS規格の机や椅子は、今どきの生徒の体格を考慮し、お客様である生徒に対するサービスにも充分神経が行き届いています。さて、これらの新校舎誕生に至る計画段階においては、6年程前に遡りますが、「学校創り」をテーマに母校教職員ならびに事業者同士全体としての「創造事業」として捉えたことです。育英会のご協

本年度の総会・懇親会は

日時 2006年11月10日(金)  
午後7時より第31回総会 午後7時30分より懇親会  
前回より同窓生の皆様が集まり易いように後ろに30分ずらしましてのお間違いない様に。  
会場 渋谷・エクセルホテル東急(渋谷マークシティ内)  
6Fプラネッツルーム TEL 03-5457-0109  
会費 ●個人参加4,000円(食べ・飲み放題)  
●グループ参加(同級生・先輩・部活仲間を声掛け合って3名以上のご同伴で)  
・3名参加=10,000円  
・4名または5名の参加=追加1名につき3,500円  
・6名以上での参加は上記3名参加2グループとします。  
(注意) 会場はエクセルホテル東急へと第26回総会より変更となりましたのでお間違えのない様に!  
是非、同級生や先輩、後輩に連絡してご一緒にどうぞ。

力はもちろんのこと事務長、校長、副校長、教職員とが共に自身の充実した「モデル校創り」を目標とし、検討に検討を積み重ね、最先端技術を随所に徹底して導入。教育カリキュラムの遂行に合わせて昨今の情報化時代にふさわしい斬新な設備となりました。厚生施設としての200名収容の食堂は生徒の家庭環境を考慮して、朝食を採れずに登校する生徒

## 《公示》同窓会総会開催について

第31回総会を下記の要領にて開催いたします。同窓会会員(卒業生)は是非ともご出席をお願いします。

多少景気が上向いているとのマスコミ等の報道もありますが、庶民である私達の実感としては『未だ未だ、その気になれない?』今日この頃ではあります。

本年7月竣工予定の見違える様な母校の新校舎の話題等、総会後の懇親会。では、情報交換、今後の人生の糧となる交流をしましょう。先輩方・後輩方との利害のない親交も貴重です。

### 記

日時 2006年11月10日(金)午後7時00分より

場所 渋谷・エクセルホテル東急 6階プラネットルーム

### 議題

- 1号議案 2005年度(2005年10月1日～2006年9月30日)活動報告
- 2号議案 2005年度(2005年10月1日～2006年9月30日)決算報告
  - ①一般会計報告
  - ②名簿関係収支報告
  - ③第30回総会決算報告
  - ④繰越金内訳
  - ⑤会計監査報告
- 3号議案 2006年度(2006年10月1日～2007年9月30日)活動計画
- 4号議案 2006年度(2006年10月1日～2007年9月30日)予算案
- 5号議案 役員改選
- 6号議案 その他

## 懇親会のご案内

総会終了後、同一場所において懇親会を開催いたします。週末の夜、仕事を離れ、懐かしい友や先生方と飲食を共にしながら楽しいひとときを過ごしてはいかがでしょうか。お仕事の都合で総会に間に合わない方でも歓迎いたします。お互いに声を掛け合ってください。

日時 総会終了後(7時30分開会予定)

場所 総会と同じ場所(楽しい企画を楽しんでください)

会費 巻頭ページ参照(飲み・食べ放題)

\*参加者を増やしたいと願う事務局の意向に是非ご協力ください。

や、独自学習、部活動により、下校時間が遅くなる生徒にも対応できるように多彩なメニューを備えたものである。また、テラスでは天候の良い日には屋外での開放された気分が食事にありつけるといった正に夢の様な校舎になった。生徒間、教員間、生徒と教員などいつでも、どこでも習字、生活

悩み等コミュニケーションの取れる空間造りにより、お互いの垣根を低くする工夫も随所に見られるのがうれしい。売店は将来に向っては品揃え豊富な充実されたものとなる予定だそうである。授業は中学3年、高等学校3年の6ヶ年を、中学1、2年・中3、高1・高2、高3との各ブロック

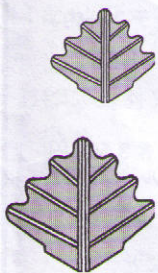
に分けての教育カリキュラムの編成に。(詳細は3ページ)お聞きしたところによりまずと、教職員の方はお互いに生徒たちの好奇心と積極的な研究心が育つ様に目的として、さらにこれらの目的・目標を携えて社会に輩出することができるとを望んで、20年後、30年後も視野に入れ

て計画的に取り組んだとのことです。完成後は暫くは全国有数のモデル校となるのは間違いのないことと自信と確信を持っているとのことでした。

また、成城という土地柄にも恵まれ、それらにも配慮し、地域住民の方々との触れ合いを重視。地域文化の要ともなれる様、芸術文化教室、講演会、展示会等なども積極的に企画運営。開放された学校となるべく心掛けてゆくそうです。

卒業生である社会でプロとして活躍の皆様にも是非とも、後輩たちや地域住民の方々のためにも母校に全面的なご協力をお願い申し上げます。是非、私たち同窓生も、母校の新校舎の一部または一室をお借りし、近い将来「同窓会」を開催したいと思っております。

今年の第48回「柏苑祭」には、御子息を連れだつて訪問されたいかがでしょうか。「同窓会の部屋」でお待ち致します。  
http://www.musakoed.jp



# 新校舎 紹介

- 新6カ年一貫体制構想の目標達成に向けてのスタート
- 新校舎学校づくり・7つのコンセプト
- 本校の将来像・今後の学校体制に見合う学校環境をつくりだす

## I 6カ年一貫体制の進学校の基本構想を充たす施設をつくる

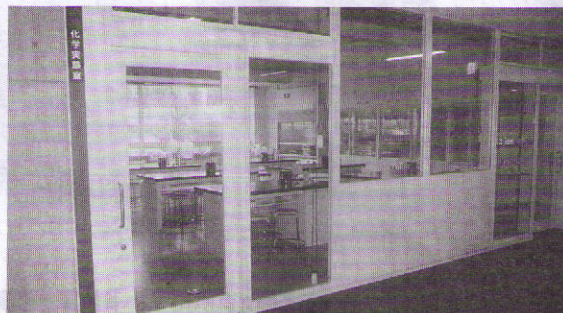
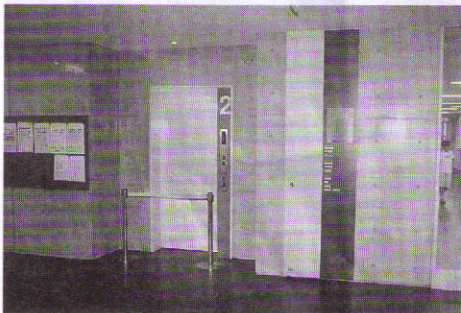
- ① 中学・高校・学習・生活のエリアの区画を明確にする。  
↳ 中・高・教科毎にブロックに分け、取り組みや意識にメリハリを付ける。
- ② 6クラス6学年体制に対応する。  
↳ 1クラス40名体制 普通教室36室(現・32) 特別教室16室(現・15)
- ③ 習熟度別・コース別・補習体制等に対応する。  
↳ 選択のための予備室の確保15室(現・7)
- ④ その他必要な施設・必要スペースの対応をする。  
↳ 全教室67教室(現・54)及び対応スペース

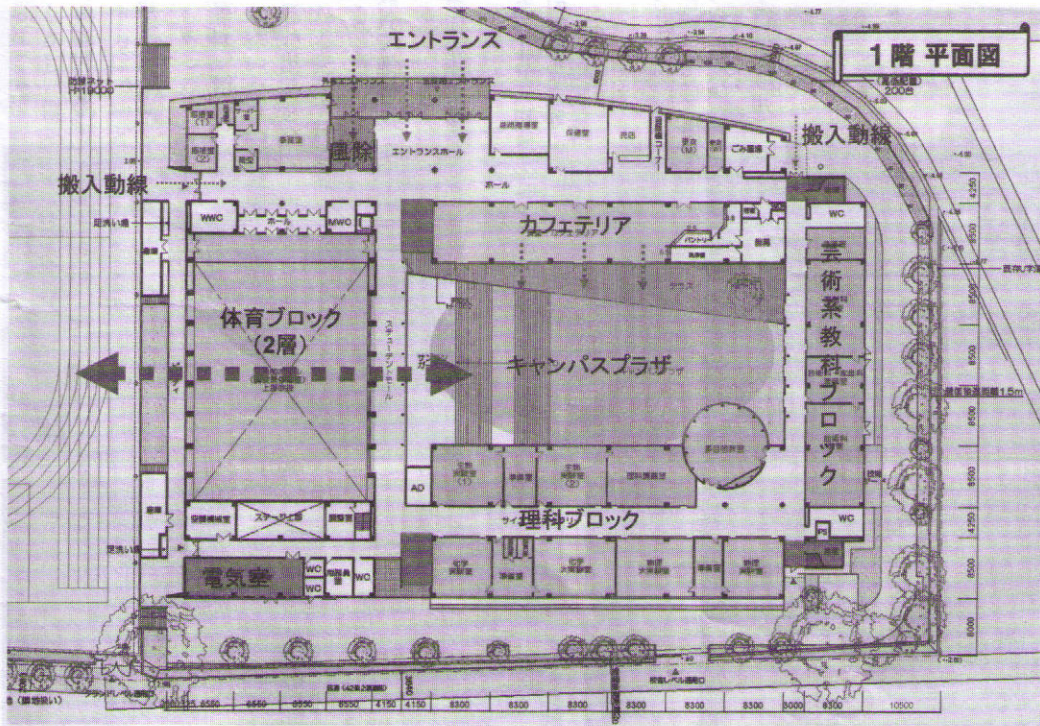
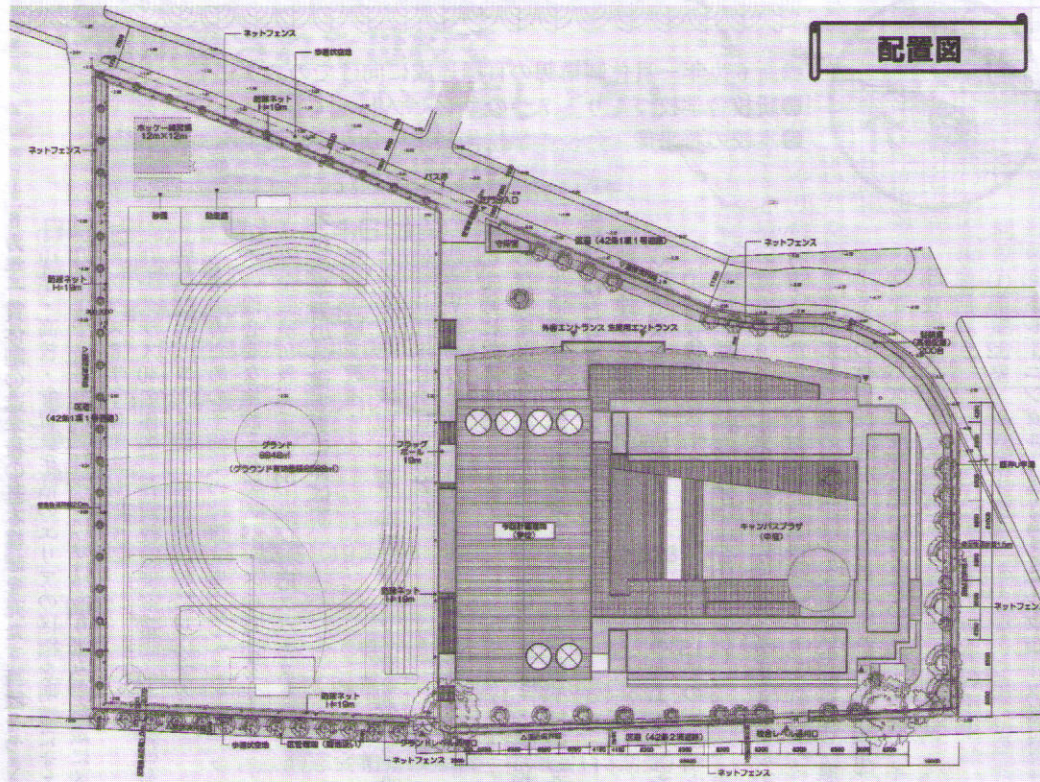
## II 本校の学習の特徴を更に伸ばす

- ① 理科実験7教室  
↳ 平常授業とは別に、週1時間・1クラスを2分し2人の教員で進める。
- ② 情報化国際社会に向け対応  
↳ AV教室の充実・全館ユビキタス態勢・劇場・スタジオ・図書館の充実等
- ③ こまめに対応する  
↳ 選択室15室・教員室前に学習対応コーナー・進路指導室等1F入口  
↳ 生活相談室3室・カウンセリング1室・廊下に話し合いの場の設定等

## III 生徒のゆとり有る生活空間を確保する

- ① 伸び伸びと動ける学校を目指す  
↳ 男子校としての活動スペース/体格の向上・活発な動き
- ① 校舎建築スペースの拡大 現在の1.5倍の床面積となる
- ② 廊下幅4.2m(くつろぎ・学習コーナー)
- ③ 200席以上食堂(早朝・放課後の対応・キャンパスプラザの利用)
- ② 行事・部活に十分対応できる学校づくり  
↳ 主体的に動く場の設定(行事の設定は生徒主体の態勢)
- ① 2層の体育館(BF1多目的ホールとして使用)
- ② キャンパスプラザ(憩い食堂につながる中庭・イベント)
- ③ 校庭(人工芝含め検討)
- ↳ 部活動
- ① 部室32室・シャワー室等
- ② トレーニングルーム・ランニングコース等





2階、3階部分 各教室・教職員室・図書室・音楽室等フロア平面図は省略

## 第30回 総会報告

総会日時 2005(平成17)年11月18日(金) 19:00～  
渋谷エクセルホテル東急

### 2004年度(2004年10月1日～2005年9月30日)活動報告

- '04.10.21 第1回理事会  
①『柏』42号発送の件
- '04.10.24 第2回理事会  
①卒業式の件 ②個人情報保護法下の同窓会名簿の件  
③HP製作の件 ④学校側窓口変更の件
- '04.11.06 第3回理事会  
①球技大会への参加の件 ②『柏苑祭』の件  
③『武蔵クラシック』の件(担当:宮原理事) ④学校側窓口変更の件(小泉先生へ)  
⑤総会開催場所の件
- '04.11.12 第29回総会 於 渋谷エクセルホテル東急6階プラネッツルーム  
第1号議案～第5号議案 全て原案通り承認されました。  
懇親会 於 渋谷エクセルホテル東急6階 同会場にて
- '05.01.26 第4回理事会  
①『柏』発行準備報告 ②球技大会の件(報告) ③『柏苑祭』の件  
④『武蔵クラシック』の件 ⑤HP製作準備の件
- '05.09.01 第5回理事会  
①『柏苑祭』(先生への講演依頼) ②『武蔵クラシック』報告 ③HPの件  
④『柏』の原稿の最終締め切り ⑤総会準備 ⑥新任理事の増員の件
- '05.10.30 『柏』43号発送 8,300通
- '05.11.06 第6回理事会  
①議案書作成 ②理事増員の件 ③その他

### 2004年度(2004年10月1日～2005年9月30日)決算報告

#### 一般会計報告(収入の部)

科目	予算	決算	内 訳
入会金	750,000	756,000	52期生252名
年会費	1,500,000	969,000	52期生252名、その他71名
引継金	3,894,382	3,894,382	前期より
雑収入	1,000	399	預金利息
写真集代	0	0	
合計	6,145,382	5,619,781	

#### 一般会計報告(支出の部)

科目	予算	決算	内 訳
会議費	120,000	58,552	理事会4回
総会費	200,000	135,535	
『柏』制作費	30,000	0	
通信費	1,000,000	437,990	『柏』42号(@80×5,440)他
印刷費	700,000	135,640	
発送アルバイト費	200,000	95,000	『柏』発送アルバイト
事務費	40,000	34,383	
同窓会賞費	80,000	50,000	
小委員会費	25,000	0	
名簿整備費	50,000	50,000	名簿管理アルバイト

柏苑祭費	30,000	47,910
HP制作費	200,000	210,000
会員交流補助費	40,000	0
予備費	100,000	0
繰越金	3,953,887	4,364,771
合計	6,768,887	5,619,781

名簿会計決算報告

科目	収入額	支出額	内訳
前期より繰越	- 493,003		
名簿販売代金	0		
印刷費		0	
通信費		0	
次期繰越金		- 493,003	
合計	- 493,003	- 493,003	

第29回総会決算報告

科目	収入額	支出額	内訳
会費	97,000		
祝金	10,000		
景品		33,270	
懇親会費		209,265	
総会援助金	135,535		
合計	242,535	242,535	

繰越金総額

一般会計繰越金	4,364,771 円
名簿会計繰越金	- 493,003 円
合計	3,871,768 円

繰越金内訳

定期預金口座	639,643 円
貯蓄預金口座	1,454,092 円
普通預金口座	49,458 円
郵便振替口座	1,902,208 円
現金	- 173,633 円
合計	3,871,768 円

上記の通り2004年度の会計報告を致します。

2005年11月18日

会計 上島 正義  
今井 章久

会計監査報告

上記、会計内容を監査の結果、正しく表示、掲載されていることを認めます。

2005年11月18日

会計監査 白井 康雄

2005年度(2005年10月1日～2006年9月30日)予算案

収入の部

科目	予算	内訳	印刷費	
入会金	750,000	53期生250名	700,000	〔柏〕43号9,500部¥300,000 44号9,500部¥200,000 封筒他
年会費	1,500,000	53期生250名その他250名		
引継金	4,364,771	前期より	200,000	〔柏〕発送アルバイト
雑収入	1,000	預金利息	40,000	事務費
合計	6,615,771		80,000	同窓会賞費

支出の部

科目	予算	内訳		
会議費	120,000	理事会6回	25,000	小委員会費
総会費	200,000	総会援助金	50,000	名簿整備費
〔柏〕制作費	30,000	編集委員会2回	30,000	柏苑祭費
通信費	1,000,000	〔柏〕43号(@80×8,000) 44号(@80×3,000)他	200,000	HP制作費
			40,000	会員交流補助費
			100,000	予備費
			3,800,771	繰越金
			6,615,771	合計

# 理事会報告

事務局長 塩満 守(19期)

今春も無事に53期生が卒業しました。彼らが最後の旧校舎(成城)卒業生です。今年の7月には新校舎が竣工し、2学期からは、新しい校舎にて授業が始まります。また7月の新校舎に引き続き、年末にはグラウンドも整備され、最終的に54期生は新しい校舎から卒業していきます。

尾山台世代、成城第一世代と代替わりは進み、いよいよムサ校も成城第二世代に入ります。

## 一、総会、懇親会について

昨年より、柏苑祭が11月になった事もあり、総会・懇親会を11月の第3週に変更させて頂き、今回が二回目の総会となりました。

今回も、無事総会を終え、門(元)校長先生のご出席を頂きました。懇親会も、盛大にとり行なわれました。また、この席で、新任理事と致しまして、安藤友二氏(25期)の理事就任の承認を頂きました。

## 二、柏苑祭について

11月5、6日に、旧校舎最後の「柏苑祭」が行なわれました。多く

の卒業生の方は、新校舎の件をご存知という事で、最後のムサ校をその懐に納めようという方、例年以上の多くの同窓生が来場されました。

最近では、同窓会の参加も認知されつつある事もあり、毎年多くの同窓生が、立ち寄って頂けました。また今年も「柏苑祭」に参加します。

今年も、新しい校舎での「柏苑祭」になります。(11月4、5日です)尾山台世代の、先輩たち、そしてもうすぐ無くなる旧校舎で学んだ卒業生の皆様、お誘い合せて、新しいムサ校を見に来てください！

## 三、「柏」の記事に関して

「柏」の記事につきまして、昨年、新たに立ち上げましたホームページや、理事の中からも、卒業生の同窓会誌である事を重視し、政治・経済問題よりは、卒業生にとって興味がある、学校的话题を中心に載せては、と言った意見が多く出された事を踏まえ記事の中心を学校的话题にしていっていった方がと言う、意見を重視したいと思えます。

これによって、「柏」ホームページ共に、もっと卒業生に、現在

のムサ校を知って頂くという見地に立った記事を載せていきたいと思えます。

今後とも、ご意見・ご希望をお寄せ頂ければ幸いです。

第30回総会ののち、同じ場所を慌ただしく宴会場に変身。永い間、同窓会名誉会長として着任していただいていた門校長からは、来年(今年)の校舎全面新築の情報

が。尾崎先生、龍瀬先生もご参加いただいた。いつも有難うございます。

母校の建物が全く新しく生まれ変わるといふのは、在校生にとっても心機一転、やる気が出てくるものである。卒業生としても喜ばしい限りである。どこことなく生徒の顔つきも違ってくるものだ。

反面、懐かしい旧校舎の「地下の渡り廊下」など、一部でも取り壊さず「保存」できたら、当時の面影に浸ることができると、ノスタルジックにもなる。母校よ永遠なれ！

毎回の総会イベント「抽選会」

## 懇親会報告

神田清人(21期)



第13回「武蔵クラシック」は実行(委)の都合で開催できませんでした。誠に申し訳ありません。次の機会をご期待ください。

## 四、総会の件

2006年11月10日(金)

19時～総会 19時30分～懇親会

渋谷エクセルホテル東急

6階プラネッツルーム

もジャンケン1発勝負。酒も料理も大満足で宴も「酣」だが、この時ばかりは会場に緊張感が漂う。下世話だが「もとを取ろう」という、しっかりとした母校堅気を垣間見る。途中都合でご帰宅された方もおりましたが来年の総会での再会を誓い、それぞれ有志で二次会へと向い散会となる。是非、来年(今年)平成18年11月10日(金)19時にお会いしましょう。絶対ですよ！

## 四十一年間を想う 門道之



この度、四十一年間お世話になりました武蔵工業大学付属中・高等学校を、

限らない想いと共に退職いたしました。

先日、同窓会役員の暖かいご苦勞さん会を催していただきましたが、その席上、「四十一年間の学校の歴史を想いと共に原稿にせよ」との要請がありました。学校の歴史ともなると、不確実の要素はあつてはいいけないわけで、その責任の重大性は計り知れないものがありますが、「想い」と言うことであるならということでは、お引き受けすることにいたしました。

42年前、つまり昭和39年11月、ある方のご紹介で当時の校長、長浜恵先生との面接が、小生の41年間の歴史の第一歩でした。昭和39年といえば、成城に移転1年目の

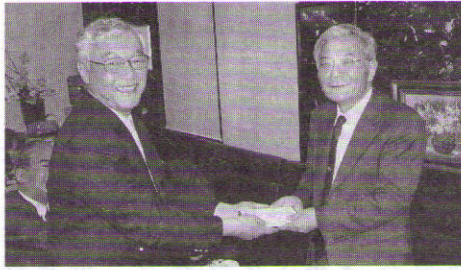
ピカピカの新社舎で、東京のモデル校とのことであったが、面接の内容がいまだにしっかり記憶にあるにもかかわらず、新社舎だった記憶がまったく無く、ただただ薄暗い校長室だった記憶のみが残っている。

新学期を迎え、初任者ならどなたも経験する緊張。人一倍経験した記憶が残る。最初の校務分掌の配属は、後に生活指導部と改称することになるが、補導部であった。放課後婦人警官と共に新宿・渋谷周辺を補導手帳を携帯して、主にダンスホールを訪ね歩いた。一見成人であるかに見える女性が生徒は14歳の中学生であったこともしばしば経験し、驚きの補導日がつづいた。靴代として50円の支給があり、150円のコーヒーを飲んで帰るのだが、当時の補導を受けた生徒はいたって素直に我々の話を聞き入れ、保護者もきわめて協力的で、何かすがすがしいコーヒータムであったような記憶もある。クラブの顧問は、高校野球部で

あった。スポーツは好きであったが、草野球の経験程度で大丈夫か心配であったが、新人では言われるまま承諾しなければならぬ立場であった。以後、教頭職を命じられるまでの13年間の内11年間(2年間は門田先生)の顧問であったが、時には野球など不可能なただの広場で、石拾いから始めた合宿も今となれば懐かしい。野球部の皆さんとは、その後連絡途絶えることなく、校長就任の際にはいち早く胴上げで祝つてもくれ、退任と聞けばご苦勞さん会まで開いてもくれる。どうも野球部と縁が深いらしく、この3月には、現役の野球部の皆さんから多少意味が違ふものの、胴上げで41年間をしてももらつた。まさに教師冥利とはこのようなことを言うのであろう。

昭和41年2月、今でも鮮明に記憶に残っていることではあるが、まったく想像もしていなかったことに驚くことになる。なんと中学で定員不足という深刻な状況になったからである。今考えると、小生がお世話になった当初が、本校の一番のピンチであったと思う。しかし、これが、その後の小生の40年間のムサコ教師としての姿勢を決めさせたようで、今では辛いだったと思っている。つまり、私学では、社会評価を念頭にせずしての教育活動は、単なる自己満足であるかのごとくの教育に受け止められがちであることを知ったからである。今は、昔を語ることもできないのが残念であるが、数学の小泉・生物の菊池・大橋の大先輩からご指導を得ての推薦割当て校の決定、そして放課後の屈辱的な小学校訪問。これが、新社舎2年目の本校の状況だった。クラス定員50名を45名にと進言し、当時の長浜校長に「生意気だ」と叱られたものの、1年1名減じつつ5年がかりで45名にと約束を取り付けたのもこのころである。厳しい時期が続いたものの、その後定員割れと言う憂き目も無く、待ち焦がれていた第二次ベビーブームと空前の私学ブームの時代を迎えるのであった。しかし、ブームはあくまでもブームであつていつまでも続くものではなかつた。しかし、かつての厳しい時期を何とか切り抜けた経験が、ここで始めて役立つこととなつた。受験日の変更・学校説明会・塾訪問等が即座に打ち出されることとなり、現在に至っている。18年度中学入学入試(17年2月実施)における





43年、大  
学より入  
学選抜は  
付属試験  
により決  
定すると  
の突然の  
通達。実  
は、これ  
を期に入  
学制度が  
何度も変

実質受験者総数二〇八〇名も、こんなこれまでの時代を、皆の努力で潜り抜けてきた結果で、感無量である。本校の一番厳しい時期にお世話になった小生には、退職するにあたって大きな贈り物をいただいたと、改めて武蔵工付属のスタッフに感謝したい。

本校で始めて担任を命じられたのは、昭和41年であった。生徒減の厳しい時期であったが、担当の生徒諸君は大変すばらしく、充実の毎日であった。しかし二年次の北海道修学旅行は、うんざりする長さであった。確か、7泊8日だったかと思うが、以前の11泊12日であったことから考えれば、短くなった

更されるのであるが、(例えば、建築科志望者にはデッサンを課せられるといった)現在のように付属と話し合うことなく常に一方的な通達で、そのたびに指導に困惑したことも記憶に新しい。この学年の皆さんが、過日校長就任の祝賀の会を開催してくれた。実に卒業して34年の皆さんであったが、即座に34年前の生徒と担任の状況になれたのが不思議でならない。担任経験は、後に中学生を担当することになるのであるが、この学年の思い出は何と言っても、昔平の林間学校。根子岳登山も厳しかったが、これ以上にまいったのは4泊5日を繰り返した事だった。今だからこそ話せるが、へとへとになつてやっと前半組を送り出し、一瞬ほっとしているところに、目をキラキラ輝かせた元気な後半組を迎える。あの時は、つらいというよりも正直言つてがつくりだった。おそらく共に担当した西谷先生も同じ思いを持っているに違いない。担任経験は、あとにも先にもこの二度のみであったが、いずれも素晴らしい学年で、今もってしても当時を鮮明に記憶している。実に思い出多い学年であると同時に、小生を大きく育ててくれた学

年である。

大きく変わったのは行事面。中でも体育祭。グラウンドを埋め尽くした全校生による東京音頭。小生もお姫様で参加したことのある仮装行列。ぜひ再現してほしいものである。

施設面ということでは、クラブハウスと技術棟および教室・管理棟の増改築。クラブハウスと言えば、思いで多い諸君もあるうかと思うが、当初は木造のどう見てもただの物置のようなものであったが、当時としてはかなり立派な鉄筋3階の建物となった。(新校舎をグラウンドに建設のため、05年5月解体)。技術棟は、事情があつて鉄骨ではあつたが、1階が技術2階が書道(のち書道・家庭併用)教室というところで、不便の解消を図る一方、現校長室・事務室・コンピュータ室・大小合わせて10教室の新築及び旧教職員室等一部を改築し、一層の指導の充実が図られることとなった。(跡地をグラウンドにするため06年8月以降解体予定)。さらに、快適な学習条件確保の為、全館空調設備の完備。このように、昭和40年代の新築当初から考えると、かなりの学習環境の充実が図られたのであつた。しかし、長年の本校の大目標であつ

た中高校完全一貫教育・ムサ校の目指す教育の実施を考えると、更なる新しい施設・設備が求められることとなった。この要望が、理事長の大英断で、グラウンドに全面新築で本校が生まれ変わる事となった。

新校舎は、平成18年7月末竣工(校舎のみ)グラウンドも整った全容は、平成19年2月ということである。

この校舎は、可能なかぎりの教職員の要望を取り入れた、いわば全教職員の魂のこもった校舎です。一部を紹介すると、体育館は2層になっていて、半地下部分はスライド収納可能な階段状椅子席を設備したホール、幅4メートルの廊下、広い中庭に面して半円形の音楽室・多用室等々。当分は、間違いなく日本のモデル校です。ぜひ本年度の柏苑祭には、同窓会コーナーも設けられるでしょうか。生まれ変わった母校を見てやってもいいと思います。

以上のような41年間でしたが、このうち教頭・校長職を合わせて28年間も期間がありましたので、担任の経験が前述の二度の機会のみでした。勿論、この28年間を悔いているものではなく、よき仲間

# 全面新築された母校で、 お会いしましょう！

## 第48回「柏苑祭」

日時 平成18年11月4日(土)・5日(日)

場所 武蔵工業大学付属中・高等学校

新築校舎内「同窓会の部屋」

(小田急線成城学園前駅下車徒歩10分)

- 本校の歴史を展示(卒業アルバム・その他)
- 進学・入学相談コーナー
- 喫茶コーナー

上記同窓会企画の詳細は

同窓会事務局・塩満(19期生) TEL. 090-3214-8023



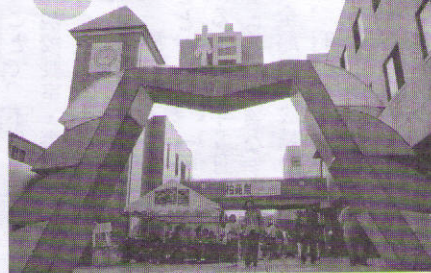
同窓会としての柏苑祭への参加が定着して参りました。今年全面新築された校舎で懐かしい先生、諸先輩、意外な方と会いましょう。とてもモダンな空間、開放的な校舎、是非とも情報交換、歓談いたしましょう。

同窓会柏苑祭担当 中澤宏(13期生)

に恵まれ大変貴重な経験をさせて  
いただいたことに、同僚・五島育  
英会様には感謝の念を忘れること  
はできません。しかし、担任を何  
度も経験する同僚をうらやましく  
感じた期間でもあり、願わくば、  
贅沢を言わせていただけば、あと  
二度ほど担任をやりたかった。こ  
れが今の偽らざる心境です。  
書道に関しても「記述せよ」と

の要請でありましたが、今後機会  
がありましたらと言うことにさせ  
ていただきます。現在の小生は、  
3年後位を目標に個展をと考え、  
会場で皆さんとお会いできること  
を最大の喜びと、サビ付いた腕に  
砥石をかけている最中です。  
皆さんの今後益々のご活躍を祈  
念してやみません。ありがとうございます。  
ございました。

## 第47回 柏苑祭に参加して



副会長 中澤宏(13期生)

平成7年第37回から「同窓会の  
部屋」は回を重ね12回目。バブル  
崩壊後に参加資格を得たのではあ  
るが、10年以上たった今でも準備  
その他で後遺症が重くのしかか  
る。当初は懐かしい「定年退職」さ  
れる先生方をお願いして、当時の  
思い出話を交えての課外講義に花  
が咲いたものである。当時の裏話  
等は、傾聴に値するし、楽しみで  
もあった。近年は団塊の世代の私  
たちに教鞭をとっていただいた先  
生方は、殆ど在籍しなくなり、さ  
みしくもあり、残念である。だが、  
しかし、定年退職されて母校を去  
られて幾年もたった先生が「同窓

会の部屋」めがけて毎年、必ずや  
訪れていただいている。本当にう  
れしい限りである。

「イヨッ」と右手を挙げて「入室」  
してくるのである。そこでまた昔  
話に花が咲く。とてもいい感じだ  
ある。

定年退職なされた先生方にも是  
非、私たちの同窓会と一緒に「先  
生方の同窓会」をなさって下さい。  
毎年会えますよ。本年は全面新  
築された校舎の観察ツアーを。俺  
ももう少し

定年が延長  
されていれ  
ば快適空間  
を満喫でき  
たのにナ  
ァ！と残念  
がつて下さ  
い。大歓迎  
です。お待  
ち申し上げ  
ます。



投稿

## || 弛む心の螺子を巻け ||

十四期 清水 茂

「私たちの国は何処に行くのか？」  
は最近の週刊誌やベストセラー上位  
書籍のタイトル。

すこぶる寛容度が高く、危機意識・緊張感が希薄、さらには忍耐度の高いのが評判の国民(庶民)である私たち(私だけか)は、村八分文化だから島国根性なのか管理社会がそうさせるのかは理解できないが、悪質な一部の特権意識をもった官僚や利権の一致を共有した一部の政治屋による鎖国・愚民政策をまたもや継承。さらにはブツシュに尻尾を振る忠犬が如く、属国民族へと有権者をも無視して口から出まかせ選挙演説や公約。勝手な解釈による宰相自らの憲法違反も平気の平左。

日本中が階段をころがり落ちていく。「有権者」よ怒れ。もっと真剣に！ 傍観しては全てが自分に跳ね返る。理解されているのだろうか。不寛容も時として「必須栄養素」なのだ。

こここのところ嵐が収まるのを待ち、隠れていた一部官僚やらその筋の応援団お役人、政治屋が拘った「悪事」(不祥事とはいえない)や一般常識では到底「思考停止」ともなる事件が後を立たず表面化し

てきている。(公務員もトバッチリでリストラの波に晒されている。さすがに「中立」を保っている場合ではない)——国家公務員法もいいが、「憲法」第19条は何なのだ——

年号が平成になるまでは、経済はバブル上昇期も含めて右肩上がり、庶民も主に物質的な豊かさや享乐的豊かさを謳歌、脇目も振らずに労働に勤しんできただけに、これらを監視することを怠った責任の一端はある。遡ること十数年前か。壱万円札の肖像が「聖徳太子」から福沢諭吉に。検証していくとどうもその頃から我が国、いや霞ヶ関が特におかしくなってきた。

聖徳太子は「役人は民への奉仕者」と仰せられた。民の税金で生活するから当然といえば当然。そう、その頃から時を同じくして、「御為ごかし役人」が増えてきたのと何やら関連性があるようだ。そうだろう……。彼等には聖徳太子は邪魔な存在だったのか、やはり大蔵省は戦後、解体すべきだったのか。アメリカにしてやられたのか。国民(翻って貴方は誰なのか)はつべこべ言わず一生懸命働き、税金を納めていけばいい「危険思想が

今だに存在するとすれば気掛かりだ。その理不尽さに改めて驚愕。既得権を確保したままの摩り替増税は断固として拒否する。

実は「既得権」というこの中こそ直接的・間接的に税金の無駄が見え隠れしているのだ。貴方たちの生活を支えているのは何を隠そう「税金だあ！」。自覚しているのか。

マッカーサーが終戦後母国アメリカに戻った時の報告の一節。「日本人は十二才の少年だった。」これは事実だが、一向に今も精神年齢が変っていないとしたら相当な問題であるとともに馬鹿にもされる。

この世に生を受けた時から「管理社会」で育てられ、疑問も疑義も発することもなく、さらに自己を形成するべきその機会も奪われ、そのまんま「終止符」を打たれてしまいうような「定年退職」という「第二の人生を享受する」と言われる年齢になってから、自己に目覚めるのであろうか。いやはや何とも遅すぎる。残念。勿体ない。日々の居酒屋での自己形成だけでは空しい限りだ。その証拠に退職した翌日から「目標」を見失い、不安で仕方がないという話も小耳に挟む。家庭を振り返れば長年連れ添った妻や子供には邪険に扱われ、居場所さえなくなるの

か。将又、挙句、熟年離婚へまっしぐらへと進むのか。すき好んでこの様な「管理社会」に埋もれてきた訳ではない筈だ。市民(庶民)参加の政治(これを世間では「民主主義」という)ではなく政府(官)主導の失政を詐欺まがいの国策がそうさせてきたことは否めない。いい例が頼みもしないオリンピック誘致はスポーツ・アスリートファン層やコンピュータ・ゲームに洗脳された特に若年層を狙った今後の選挙の票獲得。手段を選ばずか。アジアで続けてやる訳がない。またここで無駄な税金が使われる。毎日の様に通勤電車を停めている自殺者が出ているのに、「それどころではないだろう」が率直な庶民感情の筈なのだ。断じて恥じなければならぬ。

庶民からは税金を徴収しすぎる程に絞り取り、それらを播くこと。それらの恩恵を上意下達で独占的に貪ることを「経営理念の一部又は殆ど」としてきた企業群。さらにはそれらを何の恥らもなく隠れ蓑をつくり懐に隠したがる役人。天下り目当ての官制談合。政治献金の怪。機密費。調査費。枚挙にいとまがない。反吐が出る。内外の歴史では一揆か改命が。朝刊から列をなして記者会見で頭を下げた報道写真。どこが先

進民主主義国なのだ。全うな先進諸国から見れば発展途上国の何のものでもない。企業モラルもここ吹く風。世界からも近隣国からも「民度が低すぎる」と笑われる始末。いやはや何とかならないものか。「長いものには巻かれよ」は最大の悲劇を生む。納税者としての権利を主張しよう。またしても「怒れ！庶民！」政治はバラエティーでもなければ、ましてや「オモチャ」でもないのである。政治に背を向けてはいけない。最近、政治屋がやけにバラエティー番組に登場するのが鼻につく。政治は生活の集約そのものであることを肝に命じ、自覚を持つ。もつと目を覚ませよう。遠慮は禁物だ。ここでこそ名誉挽回。一念発起を期待したい。

極く一部の読者からは前号ではメール(2件)で批判を頂戴しております。できれば匿名でなく議論しましょう。大きな問題であるからこそ。それが真の民主主義でもあり、日本の輝かしい未来を約束するものでもあります。ヨーロッパ史での「中世」から日本を脱出させましょう。皆さん、いかがですか。次回には皆様からの「反論」を載せたいので是非、投稿をお願いする次第です。遠慮は禁物です。「官でも民でも」

メール <http://www.musakou.org/>



尾崎先生より提供

### 思い出写真館

### 編集後記

巻頭に母校の新校舎竣工。昭和三十一年の完成の現(旧)校舎は一部、平成七年にはIT化等で増改築された。六十年一貫教育体制の実績が一般にも評価され始めたとともに、旧校舎では施設や設備の点で校舎全体の老朽化が進み、もつと充実したそれらを備えた教育環境の整備が急務となる。さらに少子化に伴う学校間競争にも打ち勝たねばならない。

六年程遡った頃より新校舎構想と新カリキュラム構想を公表。学校側もあらゆる機会ごとに母校の魅力をアピール。ここ2、3年は受験を希望する生徒、そのご父兄も大幅に増加。育英会・校長・副校長・教職員一丸となった結果が現実のものとなる。と同時に同窓生としても母校が自慢の種になる。祝！

完成後の新校舎に先日、写真撮影のために訪問しました。外観は一見、中学・高校というより、大学かな？研究所かな？とも思える程に斬新なデザインとシンプルな空間を合わせ持ったものでした。とても解り易い案内板や中庭には巨大な空間を維持し、教室、実験室、図書館等々、壁上部はガラスを施しています。広い廊下。今までにない「開放感」が来校者にも感じ取られることと思います。

ご父兄か近隣の方が「陶芸教室」を開かれている様子。中庭の端にはシンボリックな存在であるオレンジ色をした円形三階建て多目的ホールや随所に円筒柱を配置し、空間を直線のみで固さから脱却させる等工夫が凝らされている。放課後二、三人の生徒さんに「苦勞さまです」と私に声をかけていただき、これだけでも積極的に学業・部活に取り組んでいる

様子が見てとれます。

同窓会はという残念ながらバブル崩壊後の不良債券の痛手の影響を受けつつ何とか社会人としての誇りもかろうじて維持することで困塊の世代を筆頭に影で応援するのが一杯でした。その証拠に昨秋の総会・懇親会も参加費激安でありましたが出席者が思ったより伸びませんでした。

実は、本号第14号は、本年こそ2月に発行、卒業式に合わせて完成し、規定の年2回へと戻そうと年初から意気込んで母校の工事着工の記事を取材したりしました。しかしながら、このような時期の問題なのか、私の押しが弱いのか、原稿を依頼はするのですが、一部の原稿を除き期日までになかなか届きませんでした。お忙しい中、早々にお送りいただいた方には誠に失礼を申し上げます。そのうちダラダラ日にちだけがすぎ、当方も市民運動や現在は「憲法を守る会」のイベントに参画(現在全国では5400組織に成長等、諸般の事情で次から次へとスケジュールが目白押し。発行が遅くなった事、心よりお詫び申し上げます。とはいえ決算報告、総会案内、柏苑祭と確実にお知らせしなければならぬ記事内容が有ります。せめて毎年11月に開催します総会・懇親会には卒業生の皆様、是非の参加をお待ち申し上げます。(十四期 清水)

※「懐かしい顔」はお休みさせていただきます。

—お詫びと訂正—  
前号、柏43号「ムサコ」今昔譚」で、名前を過って掲載しました。  
(誤) 大田龍平 (正) 太田航平